group が染色体の大きさ及び基本数の点で他の *Glyceria* 属のものと違つており，花の形質においてもくわしく比較すると Pauciflora group をいちじるしく特徴づけているもの一被頴の脈・外頴及び内頴の先端・鱗皮・頴果等一があるので Pauciflora group を新しい属 *Torreyochloa* として取扱うことを主張している。日本産の *Glyceria* で形態的に *Torreyochloa* に入ると考えられるものはハイドジョウツナギ及びホソバドジョウツナギの2種である (Church 1949 による)。筆者は先年ハイドジョウツナギ及び *Glyceria* の他の4種 (ムツオレグサ・ドジョウツナギ・カラフトドジョウツナギ・ミヤマドジョウツナギ) の染色体を観察して，日本産のものでも Church ののべた染色体的差が存在することをみたが，今年更にホソバドジョウツナギとウキガヤの染色体をみることができ，一致する結果をえた。秋田県角館町でえたハイドジョウツナギは 2n=21 (三倍体)，上高地産のホソバドジョウツナギは 2n=14 で，7の倍数を示し，染色体の大きさは他の *Glyceria* のものより大体3-4倍大きかつた。他の *Glyceria* 属のものの染色体はすべて10の倍数を示し，小型-(中型) であつた。染色体的形質のこのような差は Pauciflora group は Pauciflora group の中で種分化が起り，他の *Glyceria* は別の *Glyceria* の中で起つたことを示しており，この点から Church のいうように Pauciflora group を新しい属 *Torreyochloa* とし扱つた方がよいと思われる。

ハイドジョウツナギ及びホソバドジョウツナギの学名は *Torreyochloa viridis* (Honda) Church 及び *T. natans* (Kom.) Church となる。(国立遺伝学研究所)

○ホソバシヨリマ静岡県に自生す (志村義雄・杉野孝雄) Yoshio SHIMURA and Takao SUGINO: *Lastrea Beddomei* newly found in Shizuoka Prefecture.

1954年8月12日に杉野は富士山の西麓，白糸の滝北方約4 km，富士郡白糸村の狸沼のほとりで，高さ 15-30 cm の見なれないシダを採集した。ニッコウシダに似ているが，葉身の毛，葉質，葉脈，葉身の先端の形，小羽片の下部のものが順次耳形を呈する等に異があることから，恐らくホソバシヨリマではないかと考えた。早速京大田川基二博士に御同定を願つたところ，ホソバシヨリマ，との御教示を得たので報告する。

産地は海抜約 600 m の小沢沼の中で凡そ 1 m^2 の範囲に約 30-40 本位 自生していた。この場所には他にミズゴケ類及びキセルアザミ，カキラン，ミズトンボ等の種子植物が混生し，附近にはヤマドリゼンマイ，タニヘゴ，ヒメシダ，オウレンシダ等北方系のシダ類が生育していた。

このシダは海外ではジヤバ，フイリッピン，インド，台湾，朝鮮に産し，本邦では現在のところ四国及九州に稀に産すると報告されている。本州では初産地であり，又ここがこのシダの分布の東限地であろう。終りに本種の検定を賜つた田川博士に感謝の意を表する。(静岡大学教育学部及び三島市中郷中学校)